

2024年度
3年生 前期シラバス
(看護学科)

学校法人日翔学園
高知開成専門学校

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	母性看護学実習	学年	3
担当教員名	専任教員	単位数	2単位(90時間)	開講時期	前期
学習目的	妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に必要な看護が提供できるための基礎的能力を養う。ライフステージにおける女性の健康と健康障害について理解する。				
学習目標	<p><妊娠期> 1. 妊婦の生理的な経過および心理的・社会的な変化が理解できる。 2. 妊娠経過を把握し、健康診査が理解できる。 3. 妊婦に対する保健指導の目的と重要性が理解できる。</p> <p><分娩期> 1. 分娩経過とそれに伴う産婦の生理的変化が理解でき、述べることができる。 2. 正常な分娩経過をたどる産婦に必要な看護が述べられる。 3. 産婦の出産過程を通して、生命の誕生や生命の尊厳について考えることができる。</p> <p><産褥期> 1. 褥婦の援助に必要な情報を収集し理解できる。 2. 褥婦の正常な経過がわかり、性器および全身の復古への援助ができる。 3. 泌乳機能促進の援助ができる。 4. 母子関係成立への援助ができる。(育児技術獲得への援助など) 5. 新しい家族を迎える家族の適応について考えることができる。 6. 地域における母子保健活動について理解できる。</p> <p><新生児期> 1. 新生児の観察から健康状態のアセスメントができる。 2. 新生児の日常生活への看護ができる。</p>				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】 <2単位 90時間 9日間> 1グループ5～6名にて編成する。 オリエンテーション: 学内、臨地</p> <p>1. 原則として、妊産褥婦および新生児を1～2名受け持つ。 2. 受け持ち対象者の情報収集・分析・看護計画立案・計画の実施・評価を行い、ウェルネスの視点で看護過程を展開する。 3. 同意を得ることができれば、分娩の見学を行う。 4. 外来実習を1日行う。</p> <p>事前学習(学内および個人)</p> <p>1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的・心理的特徴 2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な主な検査、保健指導とケア 3. 性周期とホルモンの作用、各ライフステージと発達課題 4. ベビー人形での沐浴演習(おむつ交換、寝衣交換) 5. レオポルド触診法、子宮底長、腹囲計測 6. 母子健康手帳について 7. カンガルーケア、パルトグラム 8. 技術チェック表、経験項目の学習</p> <p>* 実習中の経験項目(以下の項目について、経験をすること)</p> <p>妊婦の健康診査 : ①母子健康手の活用 ②妊産婦保健指導 ③レオポルド触診法 ④子宮底長測定 ⑤内診の介助</p> <p>産婦の観察・指導: ①補助動作・呼吸法などの産痛緩和 ②陣痛測定・分娩の進行状態 ③パルトグラムの活用 ④カンガルーケア</p> <p>褥婦の観察・指導: ①悪露交換 ②乳房マッサージと授乳指導 ③産褥体操 ④退院指導 ⑤家族計画指導(見学)</p> <p>新生児の看護 : ①バイタルサイン測定 ②沐浴 ③おむつ交換・寝衣交換 ④授乳・哺乳方法 ⑤黄疸測定 ⑥身体計測</p> <p>集団健康教育 : ①母親学級・父親学級</p>				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	母性看護学、母性看護過程で使用したテキストなど				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	精神看護学実習	学年	3
担当教員名	専任教員	単位数	2単位(90時間)	開講時期	前期
学習目的	精神に障害を持つ人の特徴や治療過程を理解し、社会参加に向けての個別的な看護が実践できる能力を身につける。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害を持つ人を多面的に理解する。 2. 患者—看護師の関わりを通して精神に障害を持つ人とのコミュニケーション技法を学ぶ。 3. 対人関係の関わりを通して日常生活援助過程を学び実践する。 4. 精神科病院と一般病院との違い(チーム医療、看護師の役割、構造上の特徴と治療目的・効果・弊害等)を理解する。 5. 入院患者の退院に向けて社会参加への取り組みや社会資源の活用について学ぶ。 6. 精神科救急を含めた精神医療の現実を理解する。 7. 精神的健康の意味を理解する。 8. 精神保健福祉法に基づいて、人権尊重に配慮された精神科医療が行われていることを理解する。 				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】 <実習時間 2単位 90時間 9日間> 1グループ5~6名にて編成する。 オリエンテーション:学内、臨地(1日)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①原則として1名の患者を受け持つ。 ②受け持ち患者の情報収集・分析・看護計画立案・計画の実施と評価をし、患者の回復過程に応じた計画の修正と追加を行い、看護過程を展開する。 ③②について、適宜、所定の記録用紙に記録する。 <p>事前学習(学内及び個人) 統合失調症と気分障害の病態、薬物(作用、副作用)、看護について各疾患A4サイズ2枚以上。</p> <p>・病棟レクレーションは2週目に実施 ・閉鎖病棟への出入り時のドア開閉は速やかに行う。患者の病棟の出入りは、学生の判断で行ってはいけない。 ・危険物は(はさみ、カッター、針、ひも類など)、病棟に持ち込まない。 必要時は実習指導者の相談する。 ・危険物を取り扱う時は、十分に注意し、所定の位置へ返却するまで責任を持って行う。</p> <p>・患者へのかかわりの原則 ①相手が話しかけたくる位置に身を置き、そばにいて、そのまま黙っている。 ②患者に十分関心に向け、患者の言語・非言語にうなずき、支持し、患者の反応が何を意味しているのかを積極的に考える。 ③感情を言葉にして表現できるように支える。 ④患者をあるがままに受け入れる。 ⑤一貫した態度を示す。 ⑥実感を大事にする。 ⑦相手にもたらす影響を知り、自己活用をする自分を生かす。</p>				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	精神看護学、看護過程で使用したテキストなど				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	医療法人武田会 高知鏡川病院 社会医療法人仁生会 細木病院こころのセンター				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	小児看護学実習Ⅰ (子どもの人権・個性・生きる力を養う支援)	学年	3
担当教員名	専任教員	単位数	1単位(45時間)	開講時期	前期
学習目的	小児各期の成長発達を理解し、身体的・精神的・社会的側面から健康支援を必要とする子どもとその家族に対して看護を実践できる基礎的能力を養う。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの個性を多面的に捉え、子どもの成長発達や学習・生活状況に応じた日常生活援助および社会参加に向けた支援について理解する。 2. 学校や施設という生活の場所で、医療行為を必要とすることの意味や重要性が理解できる。 3. 日常生活における子どもの安全を守ることができる。 4. 保健・医療・福祉・教育機関における連携の必要性を理解する。 				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】<1単位 45時間 5日間> 高知市立高知特別支援学校:(3.5日間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援学校での子どもの自立や社会参加に向けた取り組みの実際を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・小学部・中学部・高等部に分かれて授業や作業活動、地域活動に参加する。 ・活動に参加している児童生徒の教職員や友達・地域との交流の様子を観察する。 ・教職員の児童・生徒への障がいの特徴や成長発達に応じた関わり方を観察する。 ・活動への参加および観察をとおして、それぞれの活動の目的について考察する。 ・それぞれ活動をとおして、地域や職場との連携の実際を知り、自立および社会参加のための連携の必要性について考察する。 ・子どものもつ障がいや特性を正しく理解しそれに合った環境調整を行うことで、子どもが作業や活動を遂行でき、達成感を持って目標に向かって行けることを学ぶ。 ・地域や多職種連携における看護の役割について考察する。 2 特別支援学校での児童生徒の活動を観察し、成長発達に応じた日常生活援助を指導のもとに実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中での児童生徒の行動を観察する。 ・教職員の児童・生徒への関わり方を観察し、関わりの意図や工夫、留意点を学ぶ。 ・成長発達や障がいの特徴に応じた関わり方を考え、適切なコミュニケーションをとる。 ・学校の構造、設備、特殊性、防災対策について観察する。 ・障がいに応じた安全を守るための行動についてアセスメントし、環境調整および安全を守るための行動がとれる。 3 特別支援学級での医療的ケア必要児における看護技術を見学し、日常生活の中でそれらが行われている実際を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で行われる医療的ケアに同行し、看護技術の実際を見学する。 ・どのような設備、工夫が存在するのか何のために必要なかを考察する。 ・他職種との連携の実際を学ぶ。 ・児童生徒の成長発達に伴い必要となる、将来を見据えた看護の視点を考える。 <p>児童発達支援センター ぶらうらんどkouminkanひだか(3.5日間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 センターでの活動を観察し、一般的な成長発達と比較する。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童を担当させていただき、指導者の指導・監督のもと行動する。 ・児童の成長発達に応じたかかわり方、児童の行動を観察する。 ・観察した結果を一般的な成長発達と比較し、アセスメントする。 ・アセスメントの際には、形態的、機能的、運動機能的、心理・社会的発達を踏まえて行う。 2 児童の成長発達に応じた遊びを指導のもとに実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ・成長発達を促すための遊びを指導者の指導のもとに見学および一部実践する。 ・遊びの意義、種類、遊具の選択、遊びの状況など。 ・児童の理解度に応じた対応をする。 ・具体的な児童の行動を表現する。 3 安全を守るために環境を整えることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・環境、関わり方、事故防止・感染予防対策などを理解し、環境づくりと児童の成長との関連を考察することができる。 <p>聖園ベビーホーム(3.5日間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護師、栄養士、保育士などの専門スタッフが子どもの命の保障と心身の発達をどのように支えているのかを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・日課に応じた援助ができる。 ・看護師および保育士の乳児への成長発達に応じたかかわり方を観察する。 ・乳児の健康状態の観察と健康管理の実際を理解し、観察した結果を一般的な成長発達と比較し、アセスメントできる。 ・アセスメントの際には、形態的、機能的、運動機能的、心理・社会的発達を踏まえて行う。 ・発達課題 2 乳児期の成長発達に応じた遊びを指導のもとに実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ・成長発達を促すための遊びを保育士の指導のもとに見学および一部実践する。 ・遊びの意義、種類、遊具の選択、遊びの状況など。 ・乳児の理解度に応じた対応をする。 ・具体的な乳児の行動を表現する。 				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	小児看護学、障がい児・者支援論の授業で使用したテキスト、資料				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	高知市立高知特別支援学校 児童発達支援センターぶらうらんどkouminkanひだか 聖園ベビーホーム				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	小児看護学実習Ⅱ (疾患や入院治療からの回復、健康な成長への看護)	学年	3
担当教員名	専任教員	単位数	2単位(90時間)	開講時期	前期
学習目的	小児各期の成長発達を理解し、健康もしくは健康を障がいされた子どもとその家族に対して看護を實踐できる基礎的能力を養う。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な乳幼児期の成長発達過程に応じた保育について理解する。 2. 健康障がいをもつ子どもの成長発達に及ぼす影響を最小限にするために必要な援助を理解する。 3. 健康障がいや入院が子どもや家族に及ぼす影響を踏まえて、必要な援助を實踐する。 4. 日常生活における子どもの安全を守ることができる。 5. 保健医療福祉チームにおける連携の必要性を理解する。 				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】 <2単位 90時間 9日間> オリエンテーション:学内、臨地</p> <p>もみのき幼稚園・めだか園:(2日間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園での園児の活動を観察し、一般的な成長発達と比較する。 <ul style="list-style-type: none"> ・乳児から5歳児までの各クラスに2~3名入り、幼稚園教諭及び保育士の指導・監督のもと行動する。 ・幼稚園教諭および保育士の園児への成長発達に応じたかかわり方を観察する。 ・園児の行動を観察する。 ・観察した結果を一般的な成長発達と比較し、アセスメントする。 ・発達課題 2. 乳幼児の成長発達に応じた遊びを指導のもとに實踐する。 <ul style="list-style-type: none"> ・成長発達を促すための遊びを幼稚園教諭・保育士の指導のもとに見学および一部實施する。 ・遊びの意義、種類、遊具の選択、遊びの状況など。 ・園児の理解度に応じた対応をする。 ・具体的な園児の行動を表現する。 3. 安全を守るために環境を整えることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・環境、関わり方、事故防止・感染予防対策など。 <p>外来実習:(2日間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児科外来の特殊性を学び、子どもの健康管理の實際を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・受診している子どもおよび家族に同意を得て受診を共にし、受診の目的、子ども・家族が小児外来看護に求めるものを知り、看護の必要性、役割について考察できる。 ・子どもおよび家族の不安や心配事への対応にあたっている臨地指導者やスタッフから、説明の方法やコミュニケーション技術を学び、表現できる。 2. 診療の補助の一部が實踐できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・身体、四肢、頭部の固定方法を学ぶ。 ・検査データの結果の考察ができる。 3. 外来看護の役割について考察できる。 <p>病棟実習:(4日間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1名の子どもを受け持ち、看護過程の展開を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・その子どもについてアセスメントし対象の理解をする。 ・子どもにあわせたコミュニケーション方法を選択し、援助関係を形成できる ・子どもの成長発達、健康障害、健康段階、入院・治療に基づき根拠を明確にして解釈・分析できる。 ・具体的に実現可能な援助計画を立案する。 ・入院が子どもや家族に及ぼす影響を踏まえて、必要な援助を實踐する。 2. 日常生活における子どもの安全を守ることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・病棟の構造、設備、特殊性、防災対策について観察し、考案する。 ・ベッドおよび病室などを安全な環境に整える。 ・受け持ちの子ども以外にも目に向け、小児看護のあり方を学ぶ。 ・治療や日常生活における危険行動を予測し安全を守るための行動をとる。 ・スタンダードプリコーションを實踐する。 ・實踐したことを適時報告して、子どもの安全を守る。 3. 保健医療福祉チームにおける連携の必要性を踏まえ、看護の役割を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉チームの連携の必要性をカンファレンスや記録において表現する。 ・子どもおよび家族への継続した看護の必要性を表現する。 ・小児看護における看護の役割について表現する。 				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	疾病治療論Ⅴ(小児疾患)や小児看護学で使用したテキストや資料など				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院(外来) 高知大学医学部附属病院(外来・病棟) 高知県・高知市病院企業団 高知医療センター(病棟)				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	老年看護学実習 I (老年期にある人の施設における看護)	学年	3
担当教員名	専任教員	単位数	2単位(90時間)	開講時期	前期
学習目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象を総合的に理解する。(死生観、生きがいなど含む) 2. 老年期にある対象とその家族の関係を把握し、理解する。 3. 健康上の課題を持つ高齢者を受け持ち、看護過程が展開できる。 4. 高齢者の意思を尊重し、尊厳を守るような態度が身につく。 5. 老年期の発達段階を踏まえ、個別性を考えた看護援助を理解する。 				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・生理的の反応、および心理的側面、社会的役割の変化を理解する。 2. 障害を持つ高齢者の身体的、精神的、社会的な側面を理解できる。 3. 高齢者の身体的・精神的・社会的状況や生活機能をアセスメントし、個別性をとらえた看護を実践できる 4. 高齢者とその家族の状況を理解し、援助の必要性について理解する。 5. 高齢者への共感的態度を示し、尊厳を守り、適切な言動をもって、倫理的配慮で接する。 				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】 <2単位 90時間 9日間> 1グループ5～6名にて編成する。 オリエンテーション: 学内、臨地</p> <p>①受け持ち利用者を1名受け持つ。利用者の生活機能と全体像を把握し、利用者の課題を抽出する。 ケアマネジャーの立案したケアプランとの整合性を思考できる。</p> <p>②受け持ち利用者が在宅機能の施設でどのように生活を再構築し暮らしているのか、その状況を思考し、看護の視点で支援を行う。</p> <p>事前学習(学内および個人)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老年期の身体的、心理的、社会的特徴について 2 保健福祉医療制度や介護保険の仕組みと運用について 3 認知症の症状や行動障害とその対応について 4 既習学習の見直し <p>*カンファレンスについて 臨地実習中にショートカンファレンス、ケースカンファレンス、中間カンファレンス、最終カンファレンスを行う。ショートカンファレンス、ケースカンファレンスは教員と学生で行う。中間カンファレンス、最終カンファレンスは臨地実習指導者、教員、学生で行う。カンファレンスのテーマは、前もって臨床指導者、教員に連絡しておく。また、運営は、学生が主体となって行う。</p> <p>学内実習について: グループワークおよび個人面接を行う。文献検索を行い、受け持ち利用者の病態や老年看護についての知識・技術を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①事前オリエンテーション: 施設での留意事項などの再確認、グループワーク、受け持ち患者の病態などを含む事前学習 ②受け持ち利用者の全体像を把握し、解決すべき課題を抽出する。 ③学生の個人面談を行い、実習状況を確認や精神面への支援を行う。 				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	老年看護学、老年看護過程で使用したテキストなど				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	社会福祉法人 ふるさと会 ケアハウス 花の郷高知 ケアハウス あじさいの里				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	老年看護学実習Ⅱ (老年期にある人の入院における看護)	学年	3
担当教員名	専任教員	単位数	2単位(90時間)	開講時期	前期
学習目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴って起こる疾病・障害を理解し、受け持ち患者に対して援助技術を工夫した看護過程が展開できる。 2. 高齢者とその家族の関係を把握し、高齢者を持つ家族の問題を理解する。 3. 高齢者の意思を尊重し、尊厳を守った対応ができる。 4. 高齢者の自然体としての人生の終末期の特徴を理解する。 5. 高齢者に必要な社会資源について理解する。 				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・生理的反応、および心理的側面、社会的役割の変化を理解する。 2. 障害を持つ高齢者の身体的・精神的・社会的側面を理解できる。 3. 高齢者の身体的・精神的・社会的状況や生活機能をアセスメントし、個別性をとらえ日常生活援助を工夫した看護過程の展開ができる。できれば、退院に向けての予測的問題に取り組み計画できる。 4. 高齢者とその家族の状況を理解し、必要な援助が理解できる。 5. 高齢者への共感的態度を示し、尊厳を守り、適切な言動をもって、倫理的配慮で接する。 6. 退院に向けての援助やチーム医療の必要性について理解する。 7. 高齢者の社会保障や対象に必要な保健福祉医療制度、社会資源について理解する。 8. 終末期にある対象とその家族に対する看護援助のあり方を理解する。 9. 老年看護の役割を考察し、自己の老年看護観を明らかにする。 				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】 <2単位 90時間 9日間> 1グループ5～6名にて編成する。 オリエンテーション:学内、臨地</p> <p>①受け持ち患者を1名受け持ち、情報収集する。課題を抽出し、看護計画を立案し、看護過程を展開する。 また、患者だけでなく家族に生じる問題も把握し、生活機能低下や合併症の予防、退院後の生活に視点を 持った援助を考える。</p> <p>②受け持ち患者の生きてきた道を年表にまとめ、生きてこられた人生を理解し、その人らしい援助方法について 思考する。</p> <p>事前学習(学内および個人)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老年期の身体的・心理的・社会的特徴について 2 保健福祉医療制度や介護保険の仕組みと運用について 3 認知症の症状や行動障害とその対応について 4 既習学習の見直し <p>*カンファレンスについて 臨地実習中にショートカンファレンス、ケースカンファレンス、中間カンファレンス、最終カンファレンスを行 う。ショートカンファレンス、ケースカンファレンスは教員と学生で行う。中間カンファレンス、最終カンファレンス は臨地実習指導者、教員、学生で行う。カンファレンスのテーマは、前もって臨床指導者、教員に連絡してお く。また、運営は、学生が主体となって行う。</p> <p>学内実習について グループワークおよび個人面接を行う。文献検索を行い、受け持ち利用者の病態や老年看護についての 知識・技術を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①事前オリエンテーション:施設での留意事項などの再確認、グループワーク、受け持ち患者の病態などを 含む事前学習 ②受け持ち利用者の全体像を把握し、解決すべき課題を抽出する。 ③学生の個人面接を行い、実習状況を確認や精神面への支援を行う。 				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	老年看護学、老年看護過程で使用したテキストなど				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院 医療法人 恕泉会 リハビリテーション病院すこやかな杜 医療法人 野並会 高知病院				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ	学年	3
担当教員名	専任教員	単位数	1単位(45時間)	開講時期	前期
学習目的	地域や地域住民のニーズや特徴を理解し、生活背景や健康課題、生活課題を理解し、健康上の課題解決に向けた看護の役割を考える。また、住民や通所リハビリ利用者とのふれあいの中での体験や実感を通して保健・医療・福祉の連携体制の理解を深めると共に看護が展開できる能力を養う。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々とその家族の健康上の課題を理解し、健康回復・維持・増進・予防への援助方法を学ぶ。 2. 地域で暮らす人々を「生活者」と捉え、生活の中での支援活動の実際を学ぶ。 3. 地域住民と触れ合う体験を通して、コミュニケーション能力の向上と住民が生活するうえでの思いや困りごとを理解する。 4. 地域保健・医療・福祉活動の実際を知り、地域での看護の役割や関連機関との連携について理解する。 5. 多職種の役割・機能を理解し、職種の専門性を活かしながら対象者の目標達成、問題解決に向けた連携・協働の重要性を理解する。 6. 看護の継続性や社会資源活用システム、医療・福祉機関との連携について理解する。 				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】</p> <p><実習時間 1単位 45時間 5日間></p> <p>学内事前(0.5日) オリエンテーション、既習の学習の復習とまとめ、自己の目標の明確化</p> <p>学内事後(0.5日) 4日間の実習体験をまとめたものを発表し、全体討議を行うことで、地域や地域住民の状況や困りごとを共有する。また、地域・施設における多職種連携・協働について理解したことを共有し看護の役割について考察する。</p> <p>臨地実習の構成</p> <p>社会福祉協議会:1日 高知市社会福祉協議会、南国市社会福祉協議会、須崎市社会福祉協議会</p> <p>地域包括支援センター:1日 高知市春野地域包括支援センター、高知市上街・高知街・小高坂地域包括支援センター 高知市南街・北街・江ノ口地域包括支援センター、高知市朝倉地域包括支援センター</p> <p>介護老人保健施設(通所リハビリテーション):2日 介護老人保健施設あいおい、介護老人保健施設ピアハウス</p> <p>実習内容・留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要綱に基づいて目的・目標が達成できるよう計画的に実習を行う。 2. 実習記録は、自己で用意したノート(A4)に、実習目標、目標を達成するための行動計画、評価、気づきと学び自己学習を記載する。その他、個人の創造性をもとに自由記載の内容も認める。 3. 短期間の実習であることから、積極的に行動し学びを深められるよう自律的に行動する。 4. 在宅訪問への同行時は、人への尊厳と個人情報保護に努めるとともに、接遇・マナーに留意する。 5. 地域での集会やカフェでは、積極的に住民の方々とコミュニケーションをとり、健康観や困りごとを理解できるようにする。 				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	地域・在宅看護論、社会福祉論、健康教育などで使用したテキストや参考書				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録の内容、出席状況など総合評価とする。				
実習施設	学内および上記の施設				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	学年	3
担当教員名	専任教員	単位数	1単位(30時間)	開講時期	前期
学習目的	在宅(地域)看護の対象者(本人・家族)のニーズおよび生活特性を理解し、対象者の健康保持・増進、疾病予防、QOLの維持・向上した生活の拡大、自立に向けての看護活動の役割や特徴を学ぶ。また、在宅での暮らしが継続できるための保健・医療・福祉の連携体制の理解を深める。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の健康上の課題を理解し、健康回復・維持・増進・予防への援助方法を学ぶ。 2. 在宅療養者を「生活者」と捉え、生活の中での支援活動の実際を学ぶ。 3. 在宅療養者と家族の意思を尊重した支援方法を学ぶ。 4. 他の職種の役割・機能を理解し、職種の特性を活かしながら対象の目標達成、問題解決に向けて連携の重要性を理解する。 5. 看護の継続性や社会資源活用システム、医療・福祉機関との連携について理解する。 6. 在宅ターミナルケアにおける療養者と家族を支える支援体制の実際や看護の役割について理解する。 				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】 <実習時間 1単位 30時間 4日間></p> <p>学内実習事前(0.5日) 施設のオリエンテーション、既習の学習の復習とまとめ、自己の目標の明確化</p> <p>学内実習事後(0.5日) 3日間の実習を振り返り、学びと気づきを発表。発表内容に対して意見交換する。訪問ケースで提供していた看護について考えたことを説明できる。事後レポート記載。</p> <p>実習内容・留意点 1グループ2～3名にて編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1名の利用者を受け持ち、利用者の全体像を把握し看護計画を立案する。 2. 実習要綱に基づいて、目的・目標が達成できるよう計画的に実習を行う。 3. 在宅療養者とその家族の思いを理解することができる。 4. 在宅へ訪問する学生としてふさわしい言葉遣いや態度で実習を行う。 5. 個人情報保護や権利擁護について考えることができる。 <p>実習施設 こうち看護協会訪問看護ステーション 訪問看護ステーションかがみ川 訪問看護センター輪看</p>				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	地域・在宅看護論、社会福祉論、関係法規				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況など総合的に評価する。				
実習施設	訪問看護ステーション				